

医師の労働時間短縮のための手技に関する検討

研究分担者 生田義浩 熊本大学病院中央手術部 准教授

研究要旨

医師の労働時間短縮のためには「医療従事者の合意形成のもとでの業務の移管や共同化（タスク・シフティング、タスク・シェアリング）」を徹底して取り組んでいく必要がある。本研究では、患者への説明用動画（各種検査・輸血・麻酔・手術等）といった資材の開発、予診や問診といった患者から情報収集をする際に用いる項目のリスト化、各種書類仮作成に用いる定型文の作成等を行う。

A. 研究目的

「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会」において、現行制度の下で実施可能な業務のうち、特に推進するとされた業務のなかから、定型的業務を抽出する。

B. 研究方法

代表者及び分担者で会議を行い、今後の方向性を決定する。また、事前に熊本大学病院麻酔科医師へのアンケート調査を行い、同意書取得の時間削減に関与する因子を抽出した。アンケートの結果から、麻酔科領域では麻酔前診察における説明時間が最も労働時間短縮に及ぼす影響が大きいと考えられたため、説明補助の動画を作成する事に決定した。

C. 研究結果

麻酔科医師アンケートでは、術前診察時の同意書取得に関する麻酔の説明・合併症の説明に多くの時間が消費されるとの意見が多かった。

会議では、今後の方向性として、代表的な術式・手技及び麻酔科の同意書取得の補助となる資材の作成を行うことを決定した。麻酔科の領域では、当院の麻酔科医師の意見をまとめて説明動画を作成した。

説明動画は、同意書取得を目的とした動画であるため、15分程度の長さが必要であった。今後は、使用後の実際の労働時間削減の評価

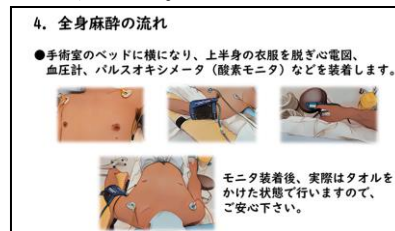


図1 麻酔説明資材の一部（麻酔の流れ）

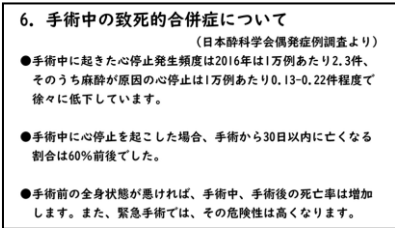


図2 麻酔説明資材の一部（合併症）

D. 考察

医師の時間外労働削減のために、麻酔科に関しては、同意書取得に直接的に関係する資材（一般的な合併症まで説明する）の作成は有効であると考えられる。

説明動画は、当院の倫理委員会等で検討後に臨床応用を考えている。臨床応用後は、患者理解度などの評価が必要であるが、労働時間削減に寄与できると考えている。また、動画はパワーポイントで作成し、各病院でのカスタマイズ可能としている。

E. 結論

定型的業務の中から抽出した業務の説明動画等の資材作成を行った。臨床応用までは更なる評価が必要であるが、労働時間削減が期待できる。

**G. 研究発表**

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

**H. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし